

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																		
千葉ビューティー&ブライダル専門学校		平成21年1月22日		高橋 一博		〒 260-0014 (住所) 千葉県千葉市中央区本千葉町8-16 (電話) 043-202-3571																		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																		
学校法人三幸学園		昭和60年3月8日		鳥居 敏		〒 113-0033 (住所) 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-6151																		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度															
衛生	衛生専門課程		ブライダルプロデュース科		令和 5(2023)年度		-		令和 4(2022)年度															
学科の目的		「世の中の困難を希望に変える」をミッションとし、学校教育法に基づき、ウェディング・ブライダルのプロとして、婚礼・花嫁の美に関わるサポートを通し、新郎新婦及びお二人に関わる全ての方に、より良い「節目」を迎えてもらう為のサービス(おもてなし力)を提供できる人材を養成することを目的とする。																						
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)		主な教育内容: 婚礼に関する専門知識や接客技術を身に付け、自ら考え動ける即戦力になる人材を育成するための教育を行う。 取得可能な資格: ブライダルコーディネート技能検定3級(国家検定)(公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会)、 ブライダルフラワーアレンジメント(日本ウェディング・ブライダル協会) 等																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技															
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			62 単位	37 単位	55 単位	6 単位	0 単位	7 単位														
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率																	
80 人	89 人		0 人		0%		12 %																	
就職等の状況	■卒業者数(C) : 37 人																							
	■就職希望者数(D) : 31 人																							
	■就職者数(E) : 31 人																							
	■地元就職者数(F) : 4 人																							
	■就職率(E/D) : 100 %																							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 13 %																							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 84 %																							
	■進学者数 : 6 人																							
	■その他																							
	千葉ビューティー&ブライダル専門学校 美容研究科へ進学者 6名 (令和 5 年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) ブライダル業界(ブライダルジュエリー企画・販売企業、ウェディングドレス・サロン運営企業等)																							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL																							
当該学科のホームページURL	https://www.sanko.ac.jp/chiba-beauty/course/bridal/																							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)																							
	<table><tr><td>総授業時数</td><td>単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位時間</td></tr><tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位時間</td></tr><tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位時間</td></tr></table>										総授業時数	単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間	うち必修授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間
総授業時数	単位時間																							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間																							
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間																							
うち必修授業時数	単位時間																							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間																							
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間																							
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間																							
	(B: 単位数による算定)																							
	<table><tr><td>総単位数</td><td>62 単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>0 単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>1 単位</td></tr><tr><td>うち必修単位数</td><td>12 単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>0 単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>1 単位</td></tr><tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>0 単位</td></tr></table>										総単位数	62 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	0 単位	うち企業等と連携した演習の単位数	1 単位	うち必修単位数	12 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	0 単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	1 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	0 単位
総単位数	62 単位																							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	0 単位																							
うち企業等と連携した演習の単位数	1 単位																							
うち必修単位数	12 単位																							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	0 単位																							
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	1 単位																							
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	0 単位																							
教員の属性(専任教員について記入)	<table><tr><td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td><td>4 人</td></tr><tr><td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>計</td><td>4 人</td></tr><tr><td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td><td>4 人</td></tr></table>										① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	4 人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人	計	4 人	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	4 人
	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	4 人																						
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人																						
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																						
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																						
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人																						
	計	4 人																						
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	4 人																							

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、実践的かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他、教員としての資質・能力の育成に必要な研修に関する事項等

またより正確に業界における動向や求められる人材要件を把握するため、就職・実習先企業や業界団体、資格・検定団体等と関係性を深め、幅広く連携を図ることで、業界の求めるニーズを確実に捉え、本校のカリキュラムや授業内容に反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意思を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するに相応しい教育課程の編成を協力して行うものとして学校長のもとに位置づけている。

具体的には、審議を通じて示された教育課程編成に係る意見を基に、副校長および各校教務チームによって教育課程とシラバスの改善素案が作成され、ブライダル分野専門委員会(別紙組織図:各専門委員会)にて提案される。

提案に基づき、ブライダル分野専門委員会にて審議の上、次年度の教育課程およびシラバスに改善内容が反映される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
林 一馬	全米ブライダルコンサルタント協会日本オフィス所長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
久保 かつみ	東京美容研究所 取締役 婚礼業務部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
高岡 利和	学校法人三幸学園千葉校 統括部門長		-
木村 香奈子	千葉ビューティー＆ブライダル専門学校 副校長		-
小松田 健治	千葉ビューティー＆ブライダル専門学校		-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年6月21日 17:00～18:00

第2回 令和5年12月13日 15:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会にていただいた以下の意見について対応を行っている。

意見:就職前に企業側と学生のミスマッチをなくし、就職へと繋がるようインターンシップを必修科目にするのはどうか。

対応:前向きに検討する。インターンシップを経験することで学校の授業だけでは学ぶことのできないマナーや現場での実践的な経験を積むことができるので良い経験になる。また、就職前に実務経験することで企業側とのミスマッチも減らすことができる為、積極的に履修するよう生徒に指導を行うようにする。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的な指導を施すにあたり、ブライダル業界における実績や、実践的かつ専門的な知識・技術およびその指導能力を有する指導者が得られる企業等を選定し、実践計画の作成から連携を図る。ブライダル業界の求める人材要件に沿った計画、および評価基準・方法を設定し、企業等からのフィードバックに基づいた成績評価を行うことを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ブライダル業界を担う人材として、業界の課題を見つけ、改善するための企画力と再現力を身につけることを狙いとし、演習科目を設定。企業様よりブライダル業界の現在の課題や今後の見通しについて講話を頂き、それを踏まえてプレゼンテーションを実施する。そのプレゼンテーションを企業の方々に評価・フィードバックを頂くことにより、より実践的な感覚を習得する。評価基準として、上記企業様によるプレゼンテーションの評価を中心にレポート等を総合的に勘案しながら成績評価を実施。定期的に企業様と学校にて、授業シラバスの進捗確認や生徒の様子を共有し、改善など協議をしている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
ブライダルプロジェクト IB	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	ブライダル業界を担う人材として業界の課題を見つけ、改善するための企画力と再現力を身につけるべく、課題・改善案を考え、プレゼンテーションできる力を学ぶ。	株式会社ベストブライダル

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

実践的かつ専門的な職業教育を実施し、明日のブライダル業界を担う人材を養成するためには、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、「研修等に係る諸規程」に基づき、計画的に以下の研修を実施している。

- ・企業等から講師を招いた実践的かつ専門的な知識・技術・技能を修得するための研修
- ・企業等から講師を招いた指導力の修得・向上のための研修

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ブライダル分野 意見交換座談会セミナー	連携企業等:	株式会社テイクアンドグヴ・ニーズ
期間:	令和5年 8月22日(火)	対象:	教職員(3名)
内容	ブライダル分野の採用にて重視している点、コロナ前との学生の質の違いなど意見交換		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	マジシャン式生徒を掴むための7つのトリック	連携企業等:	テレビ朝日映像 株式会社
期間:	令和5年8月24日(木)	対象:	教職員(45名)
内容	生徒を惹きつけるメソッド - 授業に集中させるノウハウを学ぶ		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	FWJが目指す業界展望及び今後業界発展のために専門学校へ求めること・期待すること	連携企業等:	一般社団法人 未来ウエディングJAPAN
期間:	令和6年8月23日(金)	対象:	教職員(3名)
内容	FWJが目指す業界展望及び今後業界発展の為に講話と意見交換会		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	現代社会を生きる学生と効果的な学習指導方法をめぐって ーポストコロナの教育について考えるー	連携企業等:	佛教大学
期間:	令和6年9月24日(火)	対象:	教職員(45名)
内容	コロナ禍を経て特に多様化する学生への理解と指導方法について		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、関連分野の業界関係者及び卒業生、地域に根差した関連企業と共に、学校関係者評価委員会を設置して、教育目標や教育について評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善の参考とする。

学校関係者評価は、「専修学校における学校評価のガイドライン」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「実施することを基本方針とする。また評価結果は学校のホームページで公表し、委員会で得られた意見についてはすみやかに集約し、各業務担当者にフィードバックすることで、学校運営の改善に生かすものとする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	(11) 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

委員会にいただいた以下の意見について対応を行っている。

意見：現場では情報共有が重要となってくるが学校運営に対する情報共有は、メンバー以外にも講師や生徒への共有方法はどうに行っているのか。

対応：生徒や講師全員がSankoGateやTeams、Googleクラスルーム活用して情報共有を素早く行えるようにしている。

意見：学校の魅力を伝えるには授業の準備とオープンキャンパスと出勤が多くなる月もあると思うが、教員の残業時間はどのように管理しているのか。

対応：残業時間については月の残業時間目標を設定し、各自管理を行う。OJT指導者は残業時間の把握している。

意見：生徒が満足できる授業を実施するため、授業展開はどのような工夫をしているのか

対応：授業の満足度アップの為、学校外部関係者が授業見学を行い、アドバイスや評価を頂くようにしている。また、講師に対して教務研修の実施や授業アンケートの結果を共有しスキル向上を図る。教科会の実施回数を増やし、教員同士で授業内容に差が出ないように連携を行っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年7月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
小室 奈緒	飛鳥未来高等学校千葉キャンパス	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	教育に関する知見を有する者
林 一馬	全米ブライダルコンサルタント協会 日本オフィス	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業委員
長谷部 有花	株式会社 東京美容研究所	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.sanko.ac.jp/chiba-beauty/disclosure/>

公表時期: 令和6年8月5日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則って情報提供を行うことを基本方針とし、以下の姿を目指す。

1. 学校の指導方針や課題への対応方法等に関し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性化や学校運営の円滑化につなげること。
2. 入学希望者やその保護者に対し、進路選択に当たっての有用な情報を提供するとともに、一人ひとりの能力・適性にあった望ましい進路の実現に資すること。
3. キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習・就職指導等企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげる

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標および計画
(2) 各学科等の教育	学科概要、カリキュラム、シラバス、客観的な指標の算出方法、卒業要件、目指すべき人材像、取得可能資格、就職実績
(3) 教職員	教員数、組織、専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み、実習実技への取り組み
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事
(6) 学生の生活支援	生活上の諸問題への対応
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、就学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.sanko.ac.jp/chiba-beauty/disclosure/>

公表時期: 令和6年5月20日

授業科目等の概要

(衛生専門課程 ブライダルプロデュース科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ブライダル知識ⅠA	国家検定であるブライダルコーディネート検定取得を目標としブライダル業界全体の知識を身につける	1年前	15	1	○			○		○		
2	○			ブライダル知識ⅠB	国家検定であるブライダルコーディネート検定取得を目標としブライダル業界全体の知識を身につける	1年後	15	1	○			○		○		
3	○			未来デザインプログラムA	社会人としての考え方や行動習慣を学ぶ	1年前	15	1	○			○		○		
4	○			未来デザインプログラムB	社会人としての考え方や行動習慣を学ぶ	1年後	15	1	○			○		○		
5			○	ブライダルビジネスマナー	検定取得を目指す。社会人として必要な敬語・履歴書・ビジネス文書など	1年前	30	2	○			○			○	
6			○	パーソナルカラー	検定取得を目指す。カラーの知識を学び、コーディネート力・提案力を身に着ける	1年前	30	2	○			○			○	
7			○	キャリアデザインⅠ－Ⅰ	就職活動の流れを理解し、エントリー方法・履歴書作成や面接方法を身につける	1年前	15	1	○			○		○		
8			○	キャリアデザインⅠ－Ⅱ	就職活動の流れを理解し、エントリー方法・履歴書作成や面接方法を身につける	1年後	15	1	○			○		○		
9			○	マーケティング	必須行事であるブライダルコンペティションと連動し、ブライダル業界のニーズや動向動向について知る	1年後	15	1	○			○			○	
10			○	ドレスデザインA	衣装の知識を学び、全米ブライダル協会ドレススタイリスト検定取得を目指す	1年前	30	2	○			○		○		
11			○	ドレスデザインB	衣装の知識を学び、全米ブライダル協会ドレススタイリスト検定取得を目指す	1年後	30	2	○			○		○		

12			○	インターンシップ対策	ブライダル現場に出るための準備や社会人としての考え方や心構えを養う	1年前	15	1	○			○		○		
13			○	アテンド実践A	結婚式当日のアテンダー（介添）の知識、立ち振る舞い、心得を修得する	1年前	30	1		○		○			○	
14			○	フラワーアレンジ	検定取得を目指す。装花の種類を理解し、様々なスタイルの作成ができる	1年前	45	2		○		○			○	
15	○			ブライダルプロジェクトⅠA	必須行事である模擬挙式を創り上げることを通して、挙式の流れや役割、想像力を身につける	1年前	30	1		○		○		○		
16	○			ブライダルプロジェクトⅠB	必須行事であるブライダルコンペティションを創り上げることを通して、企画力や発想力、プレゼンテーション能力を身につける	1年後	30	1		○		○		○		○
17	○			ブライダル知識ⅡA	国家検定であるブライダルコーディネータ検定取得を目標としブライダル業界全体の知識を身につける	2年前	30	2	○			○		○		
18	○			ブライダル知識ⅡB	国家検定であるブライダルコーディネータ検定取得を目標としブライダル業界全体の知識を身につける	2年後	30	2	○			○		○		
19			○	キャリアデザインⅡA	就職活動に向けて具体的な対策と社会人になるための知識を身につける	2年前	15	1	○			○		○		
20			○	キャリアデザインⅡB	就職活動に向けて具体的な対策と社会人になるための知識を身につける	2年後	15	1	○			○		○		
21			○	ブライダルジュエリー	ブライダルに関わるジュエリーの基礎知識を学ぶ	2年前	15	1	○			○			○	
22	○			ブライダルプロジェクトⅡA	必須行事であるウェディングプロデュースを創り上げることを通して、披露宴の流れや、企画力、接客力、実践力を身につける	2年前	30	1		○		○		○		
23	○			ブライダルプロジェクトⅡB	必須行事であるウェディングプロデュースを創り上げることを通して、披露宴の流れや、企画力、接客力、実践力を身につける	2年後	30	1		○		○		○		
24			○	ブライダールセルス	姿勢・立ち居振る舞い・コミュニケーションの基礎を学ぶ	1年前	30	2	○			○			○	
25			○	パーティプロデュース	テーマを合わせた挙式、披露宴のプランニングが出来るよう基礎的な結婚式の流れや用語を身につける	1年前	30	1		○		○			○	
26			○	ベーシックメイクA	メイクの基礎テクニックを学ぶ（入門）	1年前	45	2		○		○			○	

27			○	ベーシックメイクB	メイクの基礎テクニックを学ぶ（検定取得に向けて学ぶ）	1年後	45	2		○		○			○	
28			○	ブライダルネイルIA	ネイルの基礎テクニックを学ぶ（JNECネイルリスト技能検定3級取得に向けて学ぶ）	1年前	45	2		○		○			○	
29			○	ブライダルネイルIB	より高いネイルテクニックを学ぶ（JNAジェルネイル検定初級に向けて学ぶ）	1年後	45	2		○		○			○	
30			○	パソコン演習A	タイピング・Word・Excelの基礎を学ぶ	1年前	30	1		○		○			○	
31			○	パソコン演習B	パソコン演習Aに引き続き、タイピング・Word・Excelの基礎を学びパソコン技能検定3級取得を目指す。検定取得後はPowerPointの基礎知識を学ぶ	1年後	30	1		○		○			○	
32			○	ブライダルプランナー検定I	ブライダルプランナー検定1級の取得を目指し日米の結婚式についての知識を身につける	1年後	45	3	○			○		○		
33			○	ブライダルプランナー検定II	ブライダルプランナー検定1級の取得を目指し日米の結婚式についての知識を身につける	2年前	45	3	○			○		○		
34			○	コーディネートA	テーブルコーディネートに必要な器材の名称を知り、テーブルプランのパターンを理解する	1年後	15	1	○			○		○		
35			○	コーディネートB	会場の雰囲気を作り出す要素を理解し、テーマに合わせたコーディネートを考えられる力を身につける	2年前	15	1	○			○		○		
36			○	コーディネートC	会場の雰囲気を作り出す要素を理解し、テーマに合わせたコーディネートを考えられる力を身につける	2年後	15	1	○			○			○	
37			○	アテンド実践B	結婚式当日のアテンド業務・宴会キャプテン業務を学ぶ	1年後	15	1	○			○		○		
38			○	オリジナルプランニングA	ホテルやゲストハウスなどの場所やお客様のニーズに合わせたプランニング力を身につける	2年前	30	1		○		○		○		
39			○	オリジナルプランニングB	ホテルやゲストハウスなどの場所やお客様のニーズに合わせたプランニング力を身につける	2年後	30	1		○		○		○		
40			○	ハウスセールスA	新規接客に必要な知識、アンケートの目的、カウンセリング力を学ぶ	2年前	30	1		○		○		○		

41			○	ホテルセールスB	新規接客時における、会場見学からクロージングまでを学ぶ	2年後	30	1		○		○		○		
42			○	ブライダルヘアアレンジA	ヘアアレンジの基礎テクニックを活かし、アレンジ力技術の幅を広げる	1年後	30	1		○		○			○	
43			○	ブライダルヘアアレンジB	ヘアアレンジの基礎知識テクニックを学び技術の幅を広げる	2年後	30	1		○		○			○	
44			○	サービス実践A	婚礼・レストランのサービス・マナーの基礎を学ぶ	1年後	30	1		○		○		○		
45			○	サービス実践B	婚礼・レストランのサービス・マナーの基礎を学ぶ	2年前	30	1		○		○		○		
46			○	心理学	ブライダル業界のスタッフとしてお客様心理や一緒に働く仲間の心理と自己のモチベーションマネジメントを身に付ける	2年後	30	1		○		○			○	
47			○	プレゼン・コミュニケーションA	場面や相手にふさわしい挨拶、正しい日本語、姿勢や表情の作り方、傾聴力など、お客様とのコミュニケーションに必要なスキルを学ぶ 司会原稿作りを学び、原稿に合わせて実践することができる	2年前	30	1		○		○			○	
48			○	プレゼン・コミュニケーションB	場面や相手にふさわしい挨拶、正しい日本語、姿勢や表情の作り方、傾聴力など、お客様とのコミュニケーションに必要なスキルを学ぶ 司会原稿作りを学び、原稿に合わせて実践することができる	2年後	30	1		○		○			○	
49			○	ビジネスメールA	ブライダル業界に必要な基本的なビジネスメールの送り方を身に付ける	2年前	15	1		○		○			○	
50			○	ビジネスメールB	ブライダル業界に必要な基本的なビジネスメールの送り方を身に付ける	2年後	15	1		○		○			○	
51			○	ブライダル英会話IA	英語に興味を持ち、お客様に声掛け・ご案内をできるスキルを身につける	2年前	30	1		○		○			○	
52			○	ブライダル英会話IB	英語に興味を持ち、お客様に声掛け・ご案内をできるスキルを身につける	2年後	30	1		○		○			○	
53			○	ブライダル映像知識	ブライダル映像の基礎知識・編集を学ぶ	2年前	30	1		○		○			○	
54			○	WEBプランニング	WEBマーケティング・WEB打合せスキルを学びプランニングを行う	2年後	30	1		○		○			○	

55			○	着付けA	着付けに関する知識・技術を身に付けると同時に、検定取得を目指していく	2 年 前	30	1		○		○			○	
56			○	着付けB	着付けに関する知識・技術を身に付けると同時に、検定取得を目指していく	2 年 後	30	1		○		○			○	
57			○	ドレスソーイング&メンテナンスⅠ	ドレススタイリストの仕事の一環である、補正・染み抜き・裾上げ・アイロン掛け等のメンテナンス業務を学ぶ	2 年 前	30	1			○	○			○	
58			○	ドレスソーイング&メンテナンスⅡ	ドレスソーイング&メンテナンスⅠの知識・技術を活かし、メンテナンス業務が出来る。また、作品作りを行う	2 年 後	30	1			○	○			○	
59			○	ドレスフィッティング	ドレスデザインA,Bで学んだフィッティング技術を実践し、即戦力を身に付ける	1 年 後	30	1			○	○			○	
60			○	ドレスコーディネートA	ドレスフィッティングで身に付けた技術を活かし、ロールプレイングを通して接客スキルを身に付ける	2 年 前	30	1			○	○			○	
61			○	ドレスコーディネートB	ドレスフィッティングで身に付けた技術を活かし、ロールプレイングを通して接客スキルを身に付ける	2 年 後	30	1			○	○			○	
62			○	ドレスカウンセリングA	ドレススタイリストに必要なカウンセリング力、トーク力を身に付ける	2 年 前	15	1	○			○			○	
63			○	ドレスカウンセリングB	ドレススタイリストに必要なカウンセリング力、トーク力を身に付ける。	2 年 後	15	1	○			○			○	
64			○	ブライダルメイクⅠ	ブライダルに関するメイクの基礎を学ぶ	1 年 後	45	2		○		○			○	
65			○	洋装・和装メイクA	ブライダルの洋装と和装に合わせたヘアメイクのテクニックを学ぶ	2 年 前	30	1		○		○			○	
66			○	洋装・和装メイクB	ブライダルの洋装と和装に合わせたヘアメイクのテクニックを学ぶ	2 年 後	30	1		○		○			○	
67			○	ブライダルヘアアレンジA	ブライダルのヘアアレンジの基礎知識テクニックを学び技術の幅を広げる	1 年 後	30	1		○		○			○	
68			○	ブライダルヘアアレンジB	ブライダルのヘアアレンジの基礎テクニックを活かし、アレンジ力技術の幅を広げる	2 年 前	30	1		○		○			○	
69			○	ブライダルヘアアレンジC	ブライダルのヘアアレンジの基礎テクニックを活かし、アレンジ力技術の幅を広げる	2 年 後	30	1		○		○			○	

70			○	ブライダルメイク&フォトA	ブライダルのテーマ8パターンに合わせてメイクの提案ができるようになる	2年前	45	2		○		○		○		
71			○	ブライダルメイク&フォトB	学んだテクニックをアレンジし、ブライダルのフォト作品づくり	2年後	45	2		○		○		○		
72			○	ブライダルネイルⅡA	ネイルの基礎テクニックを学ぶ (JNECネイリスト技能検定3級取得に向けて学ぶ)	2年前	45	2		○		○			○	
73			○	ブライダルネイルⅡB	より高いネイルテクニックを学ぶ (JNAジェルネイル検定初級に向けて学ぶ)	2年後	30	1		○		○			○	
74			○	ブライダルエステA	エステの基礎テクニックを学ぶ	2年前	30	1			○	○			○	
75			○	ブライダルエステB	エステの基礎テクニックを学ぶ	2年後	30	1			○	○			○	
76			○	花嫁着付けⅠA	着付けに関する知識・技術を身に付けると同時に、検定取得を目指していく。	2年前	45	2		○		○		○		
77			○	花嫁着付けⅠB	着付けに関する知識・技術を身に付けると同時に、検定取得を目指していく。	2年後	45	2		○		○		○		
78			○	インターンシップⅠ	ブライダルの現場を通して、現場力・即戦力・社会人としてのマナーを身に付ける	1年後	60	2			○		○	○		
79			○	インターンシップⅡ	ブライダルの現場を通して、現場力・即戦力・社会人としてのマナーを身に付ける	2年前	60	2			○		○	○		
80			○	インターンシップⅢ	ブライダルの現場を通して、現場力・即戦力・社会人としてのマナーを身に付ける	2年後	60	2			○		○	○		
合計								80	科目					105	単位	

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 本校に修業年限以上在学し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に、卒業の認定を行う。卒業要件単位数は、31単位に当該学科の修業年限相当数を乗じた単位数以上とする。		1学年の学期区分	2期
履修方法： 原則として教育課程に定められている順序で履修する。		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。